

TKGこと「たまごかけごはん」。その専用しゅうゆでプームを起こすなど、卵で町おこしをしているのが島根県雲南市だ。出雲国風土記に登場する秘湯、海潮温泉も湧くという。今回の目当てはTKGではなくオムライス。お腹をすかせて出雲縁結び空港へ降り立った。

## 海潮温泉(島根県)

### オムライス

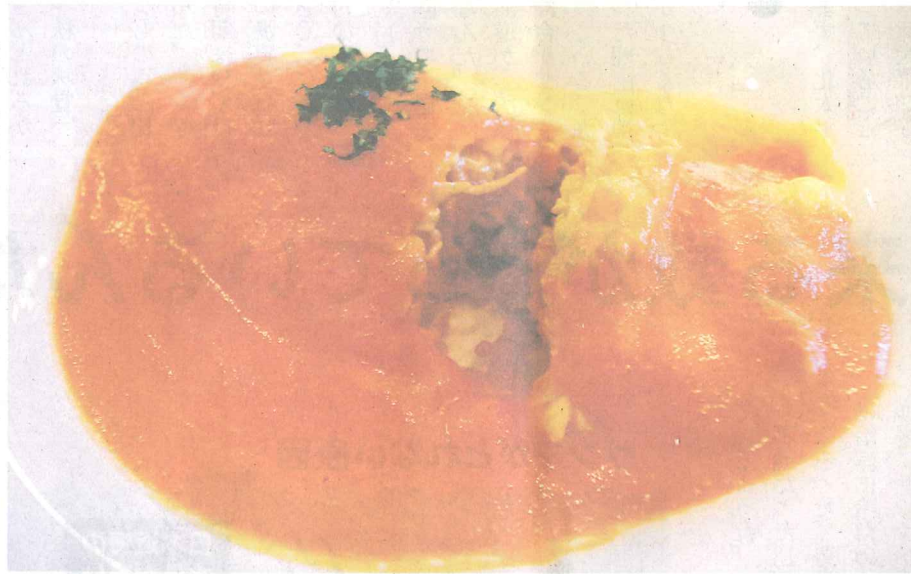
雲南市は、宍道湖へ流れる斐伊川が南北に走り各地には遺跡や古墳も多い。また、広島県へ通じる山間部には、たたら製鉄に由来する施設が現存するなど歴史が深い。

雲南地域は昭和40年代(1965〜74年)から養鶏が盛んであり、現在でも卵の一大産地である。そんな卵で町を盛り上げようと2011年に立ち上がったのが「うんなんたまごプロジェクト」だ。市内9社の養鶏場の卵を使ったオムライスを18店の飲食店で食べられるという。

向かったのは、空港から車で30分ほど走った奥出雲葡萄園にあるレストラン。迷わず「ふわトロ卵のオムライス」を注文する。滑らかなガウンをまとったかのようなオムライスを一口。卵とライスが軽やかに絡み、同時に卵の優しい風味が広がる。

この日のソースは赤ピーマンとトマト。こくのあるオムライスを爽やかに仕上げている。季節の食材やワイナリーのワインを使ったソースも出しているという。すっかり幸せな気分になり葡萄園を後にした。

# 名産の卵 ふわふわの幸せ



ふわトロ卵のオムライス、赤ピーマンとトマトのソース

この日の宿がある海潮温泉は、斐伊川の支流である赤川の谷間に湧く。山にあるのに海潮とは「海神が押し上げた潮がここまで到達したことにちなむ」と出雲国風土記にあることに由来するといふ。昭和の初めには数軒が並ぶ湯治場であったが、現在の宿は海潮荘だけ。

出迎えてくれたのは女将の植田喜久代さん。お

茶をいれつつ「須我神社を知っていますか」と話が始まった。八岐大蛇(やまのへび)を退治した素戔嗚尊(すさのおのり)と奇稲田姫命(かひのひめのみこと)が宮を造り御子神を授かったとされている。縁結び、子授け安産のご利益があるという。翌日の行き先も決まり、浴衣に着替え温泉へ向かう。

無色透明な湯で満たされた湯船は、底に敷き詰められた岩の青色が印象的だ。重なり合う巨石の間から流れてくる湯を手ですくうと、温泉の良い香りと少しのトロミを感じる。長湯を楽しんだ後は、囲炉裏で海と山の幸を味わった。

翌日は須我神社に向かった。境内には和歌の発祥とされる歌も刻まれている。祈願札を携え奥宮である夫婦岩の祈願箱に札を入れれば、子授けが成就するといわれている。息を切らせ山道を登ること10分。木々に囲まれこけむした夫婦岩が鎮座していた。

旧暦10月を神無月と呼ぶが、神々が集まるとされる出雲では神在月と呼ばれる。出雲の各神社では、毎年旧暦10月10日に神々を迎える祭りが執り行われるという。卵をきっかけに始まった旅だったが、神々が結集する月とはありがたい。無事に祈願札を納め山を下った。

(旅館コンサルタント 山田 祐子)



須我神社の鳥居



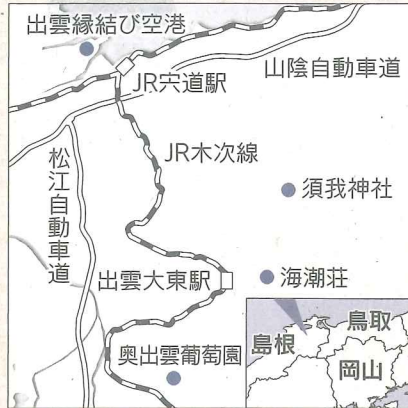
鬼の舌震をイメージした露天風呂

### アクセス

▽交通 海潮温泉へはJR山陰本線の宍道駅で木次線に乗り換え出雲大東駅下車。送迎車あり(要予約)。車は、松江自動車道三刀屋木次ICから13キロ、約25分

▽温泉 秘湯の宿 海潮荘はナトリウム-硫酸塩・塩化物泉

▽問い合わせ 雲南市観光協会(☎0854・42・9770)。奥出雲葡萄園内レストラン(☎0854・42・3480)ランチ営業時間は午前11時半〜午後2時、ふわトロ卵のオムライス770円はランチタイムのみ提供。須我神社(☎0854・43・2906)



### おみやげ

海潮荘でみつけた藤原茶問屋の「8orochi大東茶」。唐辛子や焙じ玉緑茶など地元の8種類の食材と茶葉を合わせた。888円



### 本日のお宿

秘湯の宿 海潮荘(☎0854・43・5000) 1泊2食1万5270円から。日帰り入浴は1000円で午前11時〜午後8時まで可能

NIKKEI プラス1

温泉食紀行